

平成30年度 第2回下野市小中一貫教育推進協議会 議事録

審議会等名 平成30年度 第2回下野市小中一貫教育推進協議会
日 時 平成31年3月20日(水) 午前10時00分～午前11時50分
会 場 下野市役所 2階 201・202会議室
出席者 宮川長一 委員、阿嶋敬一 委員、石崎雅也 委員、永山一夫 委員、
福田白 委員、大塩宗里 委員、五十嵐早苗 委員、伊沢幸子 委員、
小谷光子 委員、小野瀬善行 委員、渡辺欣宥 委員、
【欠席委員】 梶原和子 委員、小林幸代 委員、阿久津信博 委員、
松本文男 委員
市側出席者 池澤勤 教育長、
(事務局) 坪山仁 教育次長、海老原忠 学校教育課長、
田澤孝一 学校教育課主幹兼課長補佐兼指導主事、
西松治彦 同課主幹兼課長補佐、星野友保 同課主幹兼指導主事、
岡本直美 同課主幹兼指導主事、稲葉亜希恵 同課主幹兼指導主事、
稲見雄太 同課主幹兼管理主事、岡野友美同課主事
上野保久 小中一貫教育統括コーディネーター
公開・非公開別 (公開) ・ 一部公開 ・ 非公開)
傍聴人 0人
議事録(概要) 作成年月日 平成31年3月25日

【協議事項】

1. 開会(海老原課長)

2. 会長あいさつ(小野瀬会長)

年度末のお忙しい中、ご出席ありがとうございます。平成という時代が間もなく閉じ、新たな時代が始まります。将来に向かって、また国内外の情勢などを踏まえて、子どもたちにどのような力を身に付けてもらうのが良いのかを真剣になって議論していかなければなりません。下野市では先駆けて小中一貫教育を推進しています。素晴らしいことです。この協議会において学校教育現場に資するより良い議論が行えればと思います。

3. 教育長あいさつ(池澤教育長)

年度末のお忙しい中、ご出席ありがとうございます。下野市では平成20年より小中連携教育を開始し10年が経とうとしています。現在4つの中学校区に計12の小学校があり約4800名の児童生徒が学んでいます。子どもたちが少なくなっていく中、義務教育9年間において子どもたちに身に付けてもらいたい力を育み、可能性を最大限に伸ばしてあげるためにこの2年間は中学校区毎に小中一貫教育実践研究とし試行を重ねてきました。本協議会において小中一貫教育の検証や課題抽出、助言をいただきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

4. 議事

(1) 小中一貫教育の取組について

(2) 各中学校区全体構想図（グランドデザイン）について

(小野瀬会長) (1) 小中一貫教育の取組についてと (2) 各中学校区全体構想図（グランドデザイン）について、各中学校区代表の校長先生（委員）より一括して説明をお願いします。

(各中学校区委員) [資料1：取組について及び資料2：グランドデザインについて説明]

(伊沢委員) 国分寺西小学校区に住んでおり今年度学校が再編になり残念であるが、子どもたちが少なくなっていく中、再編はやむを得ないと考えている。この地区は多世代の家族が多く、子どもは様々な世代との交流が図れていて素直な子が育っている。しかし今日、核家族化が進んでいることから子どもたちが色々な年代と交流できる小中一貫教育も必要であると感じている。学校では学年縦割の活動の機会がより多くあればよいと思う。学習の面では、小規模の学校では子どもたちの理解度は均等に図られると感じる。大規模の学校でも理解度を深められる対応をお願いしたい。また、年下の子が年上の子たちから勉強を教えてもらう機会も作ってもらいたい。

(小野瀬会長) 小中一貫教育を通して異年齢交流を充実させ学びあえることができる。

(宮川委員) 異学年交流実践の現状だが、低学年と高学年の子どもたちが共同学習の時間を作っている。上の学年の子が下の学年の子に教える場面もある。微笑ましい光景である。

(小野瀬会長) 学校運営協議会の立場から意見はあるか。

(渡辺委員) 地域の行事に子どもたちが参画して、その中で小中学校の交流がさらに図られたら非常に良いと思う。地域の行事に対する意識が薄れてきている時代なので、学校でも参画を促してもらいたい。

(石崎委員) 地域から依頼があり、中学生が盆踊り大会で司会や審査を行っている。また、部活動単位でも参加している。さらに部活動の在り方が見直しされている中、地域総合型スポーツクラブで生徒を受け入れる動きもある。

(小谷委員) 小中一貫教育への取組を聞き感心している。外部へ情報を伝えていければと思っている。学校の先生方一人ひとりが取組に対して頑張っていると感じた。幼稚園においても家庭における学習の差が大きいと感じている。また生活習慣の差も気にかけている。家庭学習の取組があるのなら聞かせてもらいたい。

(小野瀬会長) ここは小中連携の協議会だが、幼小連携の情報共有も必要である。また全市的に家庭学習の取組の情報共有も必要である。

(福田委員) 私の身近にも友達に優しくできる子、助け合う子たちが育っている。

(3) 下野市小中一貫教育ハンドブックについて

(小野瀬会長) (3) 下野市小中一貫教育ハンドブックについて事務局より説明をお願いします。

(田澤課長補佐) [下野市小中一貫教育ハンドブックの概要説明]

(阿嶋委員) ハンドブック P18 にある「目指す子ども像」を総合的な学習の時間の全体計画に位置付けるとあるが、今年度から反映させなければならないのか。

(田澤課長補佐) すぐというわけではなく、実践研究を進めながら位置付けをお願いしたい。

(渡辺委員) P17 にある「小中一貫の日」について、説明では2か月に一度開催することだがそのことも記載してはどうか。

- (阿嶋委員) 「小中一貫の日」は子どもたちが一斉下校するので「家庭学習の日」として位置付けているが、その内容も記載してはどうか。
- (小野瀬会長) 事務局での検討をお願いします。
- (五十嵐委員) 小中一貫教育の素晴らしい取組をどうやって地域に伝えるか、また地域の方々がどう関われるのかなど、ぜひ情報を発信してもらいたい。
- (小野瀬会長) 情報を発信することで地域人材のマッチングも期待できる。
- (海老原課長) グランドデザインは市HPでの公開と子どもたちのいる家庭に配布した。また、4月の広報紙にも取組について掲載するのでご覧いただきたい。

(4) 今後のスケジュールについて

- (小野瀬会長) (4) 今後のスケジュールについて事務局より説明をお願いします。
- (田澤課長補佐) [下野市小中一貫教育推進計画の概要説明]

(5) その他

- (小野瀬会長) 上野小中一貫教育統括コーディネーターに今年度の総括的な報告をしていただきたい。
- (上野コーディネーター) 今年度4月に着任した。この1年、各学校区の小中一貫の日の会議に出席してきた。年度当初は消極的な部分も見受けられたが徐々に熱を帯び意識が高まり来月4月からの小中一貫教育本格実施に準備万端の状態となった。先生方は小学校と中学校の指導法の違いなど、改めて確認することができ理解が深まったものと捉えている。今後、子どもたちの健全育成につながればと考えており十分期待できると思った。
- (永山委員) 小中学校の先生方の取組を確認して改めて感心した。高校側の立場として小中一貫教育にどのような協力等で関われるのか、今後情報交換で確認していきたいと考えている。
- (大塩委員) 推進計画やハンドブックは融通性、柔軟性のあるものだと説明を受け、十分に活用できるものだと感じた。小中一貫教育の取組の裏側から先生方の探究心や指導力を向上する動きが見えてくる。どこの中学校区でも「学び」、「こころ」、「体」を取組の柱にしているが、特に「こころ」については道徳の授業をとおして教育する中で、先生方は道徳授業の技術向上に目を向けがちと思われるので、まずは先生自身の道徳的資質向上を目指してもらいたい。これには自主的研修が必要である。学校外部の研修参加は勤務態様の面で難しい部分もあるので改善を期待し、是非資質向上を目指してもらいたい。
- (小野瀬会長) より良い小中一貫教育を進めるためには、先生方が学ぶ存在でなければならない。小学校、中学校の各先生は意外とお互いの学校を知らないが、教職大学院の授業等では一堂に会して学ぶことでお互いの考え方等を理解することができるなど学びが大きい。先生方が小中一貫教育を進める中で、これまでの当り前を取り払う機会と捉え、常に勉強している姿を子どもたちに見てもらおうことで子どもたちの学びへ姿勢も変わると考える。
- 以上、終了する。